

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	校区社協としての取り組み	社協行動計画
住んで良かった心が通うまち「ともあい」	暮らし安全・安心「ともあい」・自助・共助「ともあい」	高齢者・障がい者・児	<高齢者の孤立防止・社会参加>	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる場所が無い ・移動手段がなく、歩いてサロン会場に通えない ・近くに通いの場がない ・全町内でサロン活動ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内でサロン未開催町内には、出前ミニサロンを開催する ※健康体操DVDセットを持参し、巡回型サロンを開催 ・校区の中心にあるコミセンで「ともあい健康&サロン」を開催 ※校区型サロンとして、定期的かつ長期に活動する 	<p>【校区社協】…来れない所を解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回型「ともあい出前サロン」を開催 ・校区型全年齢「ともあい健康&サロン」を開催
			<認知症、障がい者見守りに関すること>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人に知られたくない態度が見られる ・障がい者の方は他の方と話をするのが難しいと感じる ・独居高齢者、認知症高齢者、障がい者世帯の情報把握がむづかしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座、障がい者に対する理解を深める体験講座を開催してゆく (熊本市、ささエリア託麻へ研修開催を要請する) ・障がい者支援センターへ研修開催を要請する (熊本市へ資料及び研修を要請する) 	<p>【校区社協】…知ること・学ぶことから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症サポーター養成講座」、「障がい者対処研修」を定例開催 ・ジェンダー等人権啓発の研修開催 ・88歳の米寿祝いを節目に「命のバトン」を配布 ・困ったこと相談先案内を配布し、周知する ※先例として「尾ノ上110番」を借用・改編 ・託麻北校区の機関紙「ともあい」にて校区情報を発信
			<障がい者・障がい児との交流に関する事>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者・障がい児との交流の場が必要だと思う ・関わり方が分からないので講演会など理解を深める機会が必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命のバトン」配布と備え付けを勧める (熊本市社協と連携する) ・地域の病院、介護事業所と連携を進める (参画事業所と校区で定期的に話し合う機会を設定) ・交番だより、犯罪被害防止情報を随時流す 	
			<高齢者の生活課題>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型ショッピング施設はあるが、ちょっとした買い物ができる商店が近くに無いので移動手段があると助かる ・買い物ツアーを適宜設けるなどできないか ・タクシー予約が煩雑で困難になってきたと感じる ・詐欺などの犯罪被害が多くなり不安だ 		
		校区防災	<ul style="list-style-type: none"> <平常時における災害への備え> <防災体制づくりに関すること> <災害時避難に関する事> 	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の避難支援ができるか不安だ ・近所同士の助け合いは重要だが何をしたいか分からない ・在宅避難するときに情報や支援物資が届くか不安である ・家庭内備蓄が確保できていない ・避難経路における危険箇所が良く分からない ・災害、防災について日常から、班や組単位でのコミュニケーションが必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者の「個別支援カルテ」を作成 ・災害時要援護者名簿に記載されない障がい者等の支援にも関わる ・「災害時備蓄品リスト」を機会があるごとに周知する 	<p>【校区社協】…災害時の備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託麻北校区「災害時要援護者カルテ」を町内ごとに作成 ※要援護者と支援者との申し合せ的なメモ文書 ・災害時の避難所運営に積極的に関わる ※大規模災害には熊本市社協と連携 ・災害時備蓄品リストを随時回覧または配布する ※熊本市版、厚生労働省版などを活用する
		暮らし	<地域団体に関する事>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域役員や団体役員のなり手が無い ・行事参加者へ校区活動を呼びかけても来る人は少ない ・子供会活動の低迷やPTA役員の兼務などの根本的な仕組み、活動について議論する時期に来ている ・子供会やPTA役員のなり手が少ない ・いつでも、だれでも取り組める仕組みと拠点を創る 	<ul style="list-style-type: none"> ・「フレイル」重視の健康まちづくりに取り組む ※年代が低いほど健康づくりのための運動をしていないと言われる傾向を引き上げる ・地域の基地になる「よりどころ ともあい」を造る 全世代へ校区事業への支援と参加を呼び掛ける ・より所として「地域食堂ともあい」を定着させる ・全年齢型「健康サロンともあい」を定着させる ・親子や高齢者など多世代と交流できる拠点を創り展開してゆく ・地域食堂開催日に「子育て相談日」などを開催する 	<p>【校区社協】…地域の拠り所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の拠り所として「地域食堂ともあい」を支援 ※地域食堂ともあいの開催日にイベントを開催 ・校区型全年齢「ともあい健康&サロン」を開催 ※校区で「フレイル」重視の健康まちづくりをすすめる ・社協専属の「福祉活動員」を募集 「ともあいちよこボラ(ボランティア)活動」を展開する ※先例として弓削校区社協から名称拝借 ・「ともあい八十八カ所巡リン」を支援 ※校区の伝承遺産に親しむ仕組みづくり
目に見えてまち「ともあい」子育てしやすい	子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> <子供・子育て・見守りに関すること> <孤立と貧困に関する事> <子どもの人権に関する事> <地域の暮らし環境に関する事> 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の下校時見守りも必要ではないか ・東部中前の道路混雑時における登校時の不安がある ・子育て家庭の情報把握がむづかしい ・子育ての相談できる場所があったらよい ・家庭の中に踏み込んでゆくのは難しい ・見た目では判断できないことがある ・ひとり親世帯の情報把握がむづかしい ・学校、地域で親子参加の地域行事がない ・地域に子どもとのふれあいの場が欲しい ・地域間の交流が必要だと感じている ・虐待とつけなどの判断がむづかしい ・子どもにあいさつ、声掛けすると変質者扱いされかねないと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児を対象にした子育てサークル「こっこちゃんくらぶともあい」を展開し事業所と連携する ・社協福祉活動員をリーダーに、校区事業を継続する ・市のポイント事業プログラムを活用できないか研究し、活動しやすい環境づくりを進める ・住民の支援だけでなく、近隣大学、高校、小中学校、周辺事業所へボランティア参加協力を呼び掛ける 	<p>【校区社協】…子どもの自主性を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともあい子育てネットワーク」事業検討会議を開催 ・こどもの社会参画として、「表現の場」をつくる ※eスポーツやモルックなどで交流する ※イベント・講演・手伝いなどを通して研究し ヤングケアラーやジェンダーレスについて学び、 認知症の見守り、ボランティア体験などを企画 ・「地域食堂ともあい」を地域ステーションにして、「地域のより所」機能を拡張する ※「だっでん かつでん よかよー きなっせー」を推進 	